



女性組織を中心とした活動再開の取組

都市的地域

ざるうち

うつのみやし

申内環境保全会（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、農業情勢の変化が著しく、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進行。
- 古き良き農村の自然環境を守っていくために、農地・水・環境保全向上対策（以下「農地・水」という。）を活用し『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、農業用施設の補修や地域住民を巻き込んで植栽などの共同活動を実施。（活動期間：平成20年度～平成24年度）
- これまでは、地域の農地維持作業は農業者個人が行っていたが、農地・水の取組を進めていく中で、共同作業による農業用施設の補修が十分に実施できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったこともあり、活動を一旦休止することとなった。
- 農家、農村地域を守っていくには、やはり共同活動を再開する必要があるだろうという機運が女性組織を中心として高まり、多面的機能支払交付金による『申内環境保全会』を設立（活動再開：平成27年度）し、地域コミュニティの強化や農地の保全に努めている。

活動休止した経緯

- 当地区は平成10年度にほ場整備が完了し、10年くらい経過した頃、農業用施設の老朽化や水路の土砂堆積が目立ち始めたため、『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、施設の補修などに取組。（平成20年度活動開始）
- 5年間活動したものの、施設の補修が十分に実施できたこと、植栽など地域の美化活動が継続できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったことから、活動を一旦休止。（平成24年度活動休止）



農用地を利用した景観形成活動（彼岸花）

活動を再開した理由

- 活動休止期間中も地域の美化活動や草刈り、堀浚いなどの共同作業は行われたものの、参加者は限定的。
- 農地・水の時代から「女性では別の取組ができるのでは」、との声があったが、実現に至らず活動休止となったこと、また、以前よりも事務手続きが簡素化されたことなどから、JAの女性組織“みどり会”（女性9名）を中心に活動を再開。（平成27年度活動再開）
- 活動再開後、地域内のコミュニケーションがより取れるようになり、非農業者を含め、さらに地域をきれいにしようという意識が醸成。



女性を中心とした取組（景観形成活動）

【地区概要】

- ・取組面積 51ha（田51ha）
- ・資源量 開水路7.5km、農道6km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、婦人会、小学校
- ・交付金 約3百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

取組の効果及び活動展開

- 活動への参加が強制されないこと、女性の役員が多く、参加しやすい雰囲気となったことから、共同活動の参加者が増加。
〔 彼岸花ロードの草刈りの
参加人数 H27 19人 → H28 25人 〕
- 小学1年生による生き物調査を実施してきたが、3年生による農業体験学習を新たに開始。また、これまで1校だったが、2校に増やすなど食育の推進に寄与。
- 子供会との交流活動として、収穫体験（トウモロコシ、サツマイモ）を実施。
〔 参加人数 H27 43人 → H28 69人
※親を含む人数 〕
- 地域農業や活動組織の役員となる後継者を育成するとともに、営農集団の設立など将来にわたる持続可能な地域農業を検討。



子供会との交流会



人と人のつながりによる多様な取組の展開

さんくちよう

なすしおばらし

三区町環境保全隊（栃木県那須塩原市）

- 当地域では40年ほど前から混住化が進み、それまでの純農村地帯から現在は約750戸の85%が非農家となり、人と人の繋がりが希薄となり、伝統行事の衰退化が進んでいた。
- 問題を解決する一助となればと、農地・水の事業紹介を受け、農業者7名が発起人となり、「人と人のつながりをどう構築していくか」を大きなテーマとして農業者と非農業者が一体となった地域づくりをスタートした。
- 農業者と非農業者、都市住民と「人と人のつながり」を構築し「地域の協働力」を一步一步着実に高める活動として非農家や都市住民を巻き込んだ環境保全活動等に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 159ha(田149ha、畑 10ha)
- ・資源量
開水路 18.3km、農道30.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、消防団、
農協女性会、子供会育成会、NPO等
- ・交付金 約8百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

取組の目的

○「人と人のつながり」を構築し、「地域の協働力」を一步一步高める活動として、農業者と非農業者のバランスのとれた取組を推進。

取組の例

- ・生き物調査
 - ・田園ウォーク
 - ・地域イベントに協賛しての広報活動
 - ・環境等の啓発活動
 - ・景観形成のための植栽
 - ・子供会育成会との連携(見学会等)
- ※活動に当たっては非農家や都市住民との交流を図っている



生き物調査



啓発看板の設置



花植えによる景観形成



田園ウォーク

活動の広がり



NPOと保全隊の取組状況
(歴史公園の清掃活動)

活動をホームページで広くアピール



○ 農地・水の取組をきっかけにNPO法人三区町地域資源・環境保全会を設立し、活動組織では取り組めなかった歴史的施設の保全や地域の環境保全の取り組みを開始。

○ 三区町環境保全隊やNPO法人三区町地域資源・環境保全会ではHPを作成し、活動を広くアピールしている。

新たな展開



地域住民等へのアンケート



「三区ど〜すっ会」



全国環境保全型農業
コンクール大賞(大臣賞)



「三区女性の集い」

○地域の農業・農村を誰が担っていくのかを協議する30代～40代の若者でこうせいされる「三区ど〜すっ会」を中心に、将来に向けて話し合いを進めている。

○取組に重要な役割を果たしている、女性の感性を活かす「三区町女性の集い」を立ち上げ様々な活動に取り組んでいる。

○取組の成果として、各種コンクールにエントリーし受賞。これが自信に繋がる。



女性グループを中心とした活動で活性化

ひがしあがつままち

岡崎地区保全協議会（群馬県東吾妻町）

- 当地域は榛名山と吾妻川の間、前橋市の北西に位置した田園地帯で、北西部にある吾妻溪谷に代表される景勝地への副道として車両通行があり、道路沿いの農地ではゴミの不法投棄による環境悪化が問題となっていた。
- 平成20年度から農地・水保全活動組織の岡崎地区保全協議会が発足。1構成員として女性組織「じろべえ会」も参画。
- 女性組織は、取組のPR活動や地域との交流会を主体となって推進しており、地域振興の一助となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 83ha（田39ha、畑44ha）
- ・資源量
開水路 7.6km、パイプライン 20.1km、
農道 20.2km、ため池6カ所
- ・主な構成員
農業者、自治会、女性会、小学校
PTA等
- ・交付金 約5百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

女性の役割

- 女性だけで構成する「じろべえ会」は地域の新田開発に尽力のあった代官の遺徳をしのび、その屋敷跡周辺の清掃活動等を30年以上継続している組織。
- 農地・水の活動組織の設立にあたって、「じろべえ会」との活動目的が一致したことで、組織の1構成員となった。
- 活動組織等が行うPR活動等では主体となって活動を進めている。



代官屋敷跡周辺 清掃活動

活動の広がり



農地・水回りの
環境美化活動



花の植栽活動



地域の祭礼での
餅つき大会



農業用パイプラインを
利用しての消防訓練
（餅つき大会時）

- 祭礼等のイベントの際は活動組織のPRとして「じろべえ会」が主体となって餅つき大会を開催。
- 地域の活気を増進して、地域の活性化にも貢献。

活動の効果



女性部の結束は強く
会員も増え続けている



「家を守るのは女性」と
積極的に消火訓練に参加



- 女性が主体で実施していることもあり、地域のイベントの際は、非農家も含む地域住民が気軽に参加しやすい環境が形成されている。
- 「じろべえ会」では毎年1回は会員で旅行に行くなど、つながりを深めることも行っており、現在でも会員は増え続けている。活動組織の活気にも繋がっている。



むらやま さと はぐく

ほくとし

村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

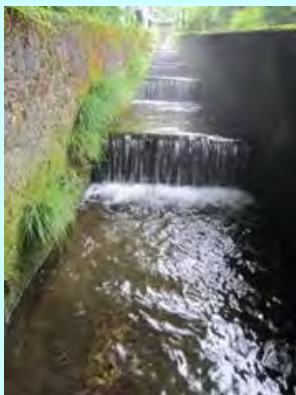
- 本地域は、八ヶ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める市のほぼ中央にある高根町に位置する水田地帯。疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を活用した様々な活動が、本交付金の取組により充実。
- 小学校等と連携して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶ親子3世代のイベントを開催したり、疎水によって育まれる食材の魅力発信などもイベントに取り入れ、地域内の様々な組織と連携し、地域間と三世代の交流を図り、地域を活性化。

【地区概要】

- ・取組面積 344ha
(田228ha、畑116ha)
 - ・資源量 開水路12.1km、農道3.4km
 - ・主な構成員 自治会、婦人会等
 - ・交付金 約26百万円(H29)
- 〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位のコミュニティ機能が低下。
- 疎水百選に選定された「村山六ヶ村堰疎水」やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全し、郷を守り育て次世代につなぐという気運が低いことが課題であった。



疎水百選に選定された村山六ヶ村堰疎水

取組内容

- 本交付金を活用し、集落間で連携し、小学校の総合学習や親子3代で疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- イベントでは、女性グループによる地元産トマトをPRするトマトスイーツの試食コーナーを設けるなど、地域内の様々な組織と連携した活動を展開。
- 植生に詳しい専門家と協力し、キキョウ等、疎水周辺の希少植物を楽しむ新たな散策ルートを考案し、農村原風景探訪のイベントを開催。



イベントにおける試食コーナーの様子



絶滅危惧種のキキョウ

取組の効果

- 地域内の子どもを対象に疎水の歴史や役割を学ぶ環境学習に取り組むことで、親世代にも、疎水保全に係る理解を醸成。
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度を上げることで、多くの観光客を受け入れ地域を活性化。

〔 H28年度ウォーキングイベント参加者数:120人(3小学校4年生)
H28年度農地維持活動の参加率:9割超 〕

〔 H28イベント広報活動:広報誌 3回、TV取材 3回
地域間交流イベントにおける地域外からの参加割合:約3割
希少植物を楽しむイベント参加者数:約145人 〕



小学校と連携したイベントの様子